

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長 砂金甚太郎
農林水産省生産局長 今井敏

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修 報告(後編)



購買部だより

第11回全酪連肉牛枝肉共励会

酪農トピックス／
愛知県酪農農業協同組合青年女性部
白熱！全体研修会

グループ活動紹介／上足寄地区酪農振興会

総務部だより／
この冬の節電&夏の電力需給見通し
酪政連活動報告

日本酪農見て歩紀
(三重県玉城町 林牧場)



1

2012 January No.556



全国酪農業協同組合連合会

生産者の皆様が安心して 酪農を継続できるよう、 地域の酪農生産基盤の安定を図る

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成24年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、新年早々に北日本で豪雪被害

があり、春には東日本に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生し、夏から秋には西日本で台風被害が何度も起きる等、振り返れば自然災害が多かった年でした。

東日本大震災では原子力発電所事故が発生し、福島県の多くの酪農生産者が今も不自由な避難生活を強いられています。

さらに、放射性物質は、北関東、東北の広範な地域の作物と土壌を汚染し、更新

牛の滞留、汚染粗飼料の廃棄、土壌の除染等多くの課題を残したまま、越年してしまいました。

弊会としても会員と協力しつつ、被害を受けられました酪農生産者の皆様の経営再開、また経営を強化できるよう、行政に対し支援を要請するとともに、搾乳牛導入や経営指導等を推進し、地域の酪農生産基盤の安定を図っていききたいと考えています。

何よりも、今年こそは災害の無い平穏な一年であってほしいものです。

さて、ギリシャの財政危機に始まったEU加盟国の財政不安は、諸外国を巻き込む金融不安となり、世界経済を混沌とさせています。

また、国内では、東日本大震災や記録的な円高等により輸出産業を中心に業績が伸び悩み、経済は低迷しています。

そのような中、野田政権は国内議論も不十分なままTPP交渉参加のため他国と協議を開始することを昨年11月に表明しました。

資源に乏しい我が国は、貿易立国として発展してきました。そして、これからも貿易を通して国家を発展させていくことは必然なのかもしれません。

しかし、国内対策の無いまま貿易関税率ゼロを基本とするTPPに参加すれば、酪農をはじめとする我が国の農業は大きな打撃を被ります。

昨年、世界人口は70億人を超え、これからはいよいよ食糧危機の時代に入るといわれています。数年前にロシア等が穀物の輸出を停止したように、食糧輸出国といえども異常気象や経済危機、また、

周辺地域で紛争が起これば、ただちに輸出を停止することも考えられます。これ以上、日本国民の食糧を他国に依存するようなことは断じて行うべきではありません。

日本の酪農は、安全・安心で高品質な牛乳乳製品を毎日供給しているだけではなく、牧草地や飼料作物地による国土保全、こどもたちへ「いのち」の大切さを伝える教育等の付加価値を持っており、国民生活に多面的に貢献しています。

弊会としましては、日本酪農政治連盟や他団体と協調し、拙速なTPP参加には断固反対していく所存です。また、酪農生産者の皆様が安心して酪農経営を継続できるよう、酪農生産基盤を安定させ、若い後継者が育つような酪農対策を政府へ要請してまいります。

今年4月からは、第九次中期事業計画が始まります。

第八次中期事業計画の3カ年では、全酪連グループとしての累積損失を解消し、会員皆様への出資配当・事業分量配当を復活させることができました。

また、技術・経営情報提供の充実、生産性向上とコスト低減への取組み支援等

について、DMSシステム（酪農家経営管理支援システム）態勢の強化をはじめ、自給飼料生産技術から乳質改善技術に至るまで、酪農生産者・会員への総合的な支援を進めてまいりました。

第九次中期事業計画は現在策定を進めておりますが、第八次中期計画で行ってきた支援も含め、酪農生産環境の整備や生産性の向上、生産物の有利販売の強化といった事業にも積極的に取り組んでいくような内容としております。

弊会としましては、今後とも全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、日本の酪農の将来への持続的発展に向けて、中長期的に本会の果たすべき機能等の強化を図り、酪農専門農協の全国連として日本の酪農の振興と発展に寄与していきたいと考えております。

最後に、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 今井 敏

敏



フィードの生産・利用を拡大するといった取組を支援してまいります。

国際交渉への対応

高いレベルの経済連携の推進と我が国の食料自給率の向上や国内農業・農村の振興を両立させ、持続可能な力強い農業を育てるため、昨年「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」を発表し、農林水産業再生のための7つの戦略や今後5年間の行動計画等を打ち出したところです。これらも踏まえ、国際交渉については、被災地の復旧・復興等の状況も注視しながら議論を重ねていくところです。

皆様御案内のとおり、我が国畜産業は、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給するのみならず、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じ、国民生活に重要な役割を果たしております。私どもとしましては、以上のような取組を着実に実施することにより、大震災及び原発事故からの復興に取り組みつつ、我が国畜産業の一層の発展、充実を図っていく決意であります。

皆様におかれましては、旧年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたします。私の新年の御挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。平成24年という新しい年を迎えるに当たり、一言年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災により、多くの生命が失われる等未曾有の被害を被り、畜産業も多大な影響を受けました。更に、(株)東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、出荷制限指示等に係る損害、牛肉や稲わらから放射性物質が検出され、深刻な風評による損害も生じました。

本年は、畜産業が大震災前にも増して輝く年になるよう全力を挙げてまいり所存ですが、今後の畜産行政の推進に当たっての基本的な方針を何点か申し上げます。

大震災・原発事故からの復興

農林水産省としては、関係省庁等と連携しつつ、被災地への飼料供給をはじめとする様々な復旧・復興対策を速やかに実施してまいりました。また、原発事故への対応としては、東京電力による迅速

かつ適切な損害賠償への対応、安全な畜産物の供給に向けた適正な飼養管理と検査体制の強化、風評被害防止のための情報提供、肉用牛肥育農家の経営支援等を実施しております。大震災及び原発事故からの復興に向け、今後も引き続き取り組んでまいります。

生乳需給及び酪農経営の安定

昨年の生乳生産量は、一昨年の猛暑や昨年の大震災の影響で前年を下回って推移しておりましたが、秋口以降徐々に回復してきております。農林水産省としては、全国の生乳需給及び酪農経営の安定を図っていくことが重要であると考えております。このため、加工原料乳生産者補給金やチーズ対策等酪農経営安定対策を着実に実施するとともに、学校給食への国産牛乳の供給支援等を引き続き行っています。

肉用牛等の畜産経営の安定

牛肉につきましては、景気低迷による消費者の低価格志向や原発事故に伴う風評により、卸売価格が低迷しておりま

す。農林水産省としては、適切な飼養管理の徹底や検査体制の強化等により、安全なものしか出荷されない体制を構築しているところです。こうした取組状況を、消費者・実需者に対して丁寧かつ正確に情報提供していくことにより、消費者の信頼回復を図っていくことが重要であると考えております。このため、肉用牛をはじめとする畜産経営の安定を図っていくためには、新マルキン等の経営安定対策のみならず、生産者自らが付加価値の高い食肉等の流通・販売を実現する6次産業化の取組も重要であることから、こうした生産者等の取組を支援してまいります。

飼料自給率の向上

穀物の国際価格は中長期的に上昇傾向にあり、世界的な人口の増加傾向等も踏まえると、穀物価格が急騰した平成19年以前の水準まで低下することは期待しにくいところです。飼料自給率の向上を図るため、我が国の水田や耕作放棄地、地域で発生する食品残さ等の資源を有効に活用し、飼料用米や飼料作物、エコ

最優秀賞は

和牛部門

「勝英農協花房牧場」並びに

交雑種部門

「土幌町農協(有)緑陽肉用牛牧場」！

第11回全酪連肉牛枝肉共励会

去る11月30日(水)、弊会主催の「第11回全酪連肉牛枝肉共励会」が南大阪食肉地方卸売市場で、南大阪食肉市場(株)の後援及び(社)日本食肉格付協会、(社)日本食肉市場卸売協会の協賛を得て、出品会員や生産者ら46名が参加して開催されました。

この共励会は、南大阪食肉地方卸売市場に日頃出荷している弊会会員を中心に、肉質の向上と弊会肥育体系の充実・普及を目的として毎年この時期に開催しており、今回で11回目となります。

今年には牛肉からの放射性セシウム検出問題に端を発し食肉全般の消費が停滞しており、枝肉相場も低迷し非常に厳しい情勢が続いています。が、出品牧場の日頃からの努力と市場関係者の皆様のご協力により、良好な成績を残すことができました。

出品頭数は、北は北海道から南は宮崎県まで5会員より厳選された肉牛合計82頭(和牛28頭、交雑種54頭)です。その中から和牛部門は勝英農協共同組合の花房牧場の出品牛が、交雑種部門は土幌町農業協同組

合の(有)緑陽肉用牛牧場の出品牛が、それぞれ最優秀賞に選ばれました。

今回の最優秀出品牛の内容は、和牛では、去勢、規格等級A15、枝肉重量518.7kg、BMS10、枝肉単価2,244円(税込み)、交



表彰式の様子

雑種では、去勢、規格等級B13、枝肉重量535.5kg、BMS15、枝肉単価1,311円(税込み)でした。

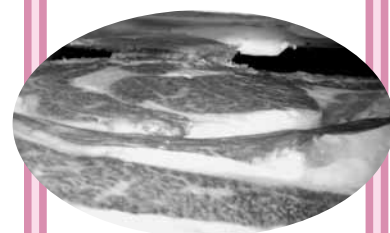
表彰式に先立ち、審査を担当して頂いた(社)日本食肉格付協会松原事業所の柳原所長より「和牛・交雑種ともに外観は全般に厚みのある枝肉が揃っており、ロース芯が大きく、バラも厚く優れた枝肉が見受けられました。しかし、一部にはロース芯のやや小さいものや変形したもの、皮下脂肪が厚く、光沢、締りにいまいちの枝肉もみられたことから、今後の脂肪交雑の向上を含めた生産者の皆様の活躍を期待します。」との講評を頂きました。

食肉市況が低迷している中、市場関係者の方々からの暖かいご意見を頂き、参加者一同、肉質改善の重要性を改めて強く認識した共励会となりました。

なお、今回の共励会の受賞者の方々は次の通りです。

(T・H)

	種別	所属組合(連合会)	出品者名(敬称略)	都道府県名
最優秀賞 (2点)	黒毛和種 去	勝英農協	花房 芳視	岡山県
	交雑種 去	土幌町農協	(有)緑陽肉用牛牧場	北海道
優秀賞 (3点)	黒毛和種 雌	熊本県酪連	金子 美之	熊本県
	交雑種 雌	霧島ビーフ農協	中村 義則	宮崎県
	交雑種 去	愛知県酪農協	白井 平太	愛知県
優良賞 (3点)	黒毛和種 雌	勝英農協	花房 芳視	岡山県
	交雑種 雌	土幌町農協	(有)緑陽肉用牛牧場	北海道
	交雑種 雌	霧島ビーフ農協	大窪 重人	宮崎県



最優秀賞

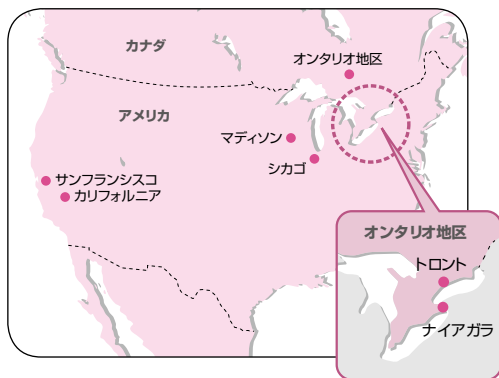
ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修

報告
-後編-

11月13日、空路にてカナダから米国サンフランシスコに移動しました。
折しも野田首相がTPP交渉への参加を表明したとの情報が視察参加者の間を駆け巡ったこともあり、現地でのニュースに注目しましたが、たまたまタイミングが合わなかったのか、そもそもアメリカ国民の関心が高くないのか、これと
いって目立った報道には遭遇できませんでした。

■行程表

11/ 9(水)	成田空港よりカナダ(トロント)へ
11/10(木)	ナイアガラ滝とトロント市内観光
11/11(金)	ロイヤル・ウィンター・フェア視察
11/12(土)	サミットホルム農場(オンタリオ州)視察 克蘭デール&克蘭ホルム農場(オンタリオ州)視察
11/13(日)	空路、米国(サンフランシスコ)へ ヒルマー・チーズ工場(カリフォルニア州)視察
11/14(月)	ヴァルシナ農場(カリフォルニア州)視察 米国酪農情勢についての講演
11/15(火)	空路、サンフランシスコより成田空港へ
11/16(水)	夕刻帰国、解散



ヒルマー・チーズ工場

ヒルマー・チーズ工場は、カリフォルニア州ヒルマーにて1984年、周辺12

戸の酪農家によって設立され、現在では1,000人以上の従業員を抱える世界最大のチーズ工場です。北米でのシェアは20%を超えていますが、製品のほとんどは乳業メーカーからの委託や加工用の



原料向けなので、ヒルマー・ブランドのチーズは工場内の直営販売店でしか手に入りません。チーズの他、ラクトーヌも製造しており、こちらは世界各国に輸出されています。一日の処理乳量は約450万リットルで、集乳範囲は半径180マイル、車で3時間以内のエリアに300件の契約農家があり、毎日200台の集乳車で生乳を受け入れています。

集乳車のドライバーにはサンプル提出が義務付けられていて、タンパク等の成分が良ければ平均価格にプレミアムが付く一方、数回にわたって成分が悪いと受入が拒否されることもあるそうで、搾乳からチーズへの加工を24時間以内で行なっていることも併せ、品質に対する拘りは非常に高いと感じました。

また環境への配慮を大きくアピールしており、工場排水の60%を再利用し、残りは所有するトウモロコシ畑で使用、そのトウモロコシを摂取した牛の生乳をチーズ、ホエイプロテイン、ラクトースに加工することで総合的なリサイクル率は100%だと謳っています。

カリフォルニアの当工場とは別にテキサス州にも工場があり、カリフォルニアの契約農家の規模は一戸あたり飼養頭数600から800頭であるのに対し、テキサスでの契約農家は36戸だけですが、一戸あたりの飼養頭数は2,000頭だそうです。

ヴァルシナ農場

ヒルマーにて、一戸あたり平均飼養頭数が2,000頭という説明を聞き、一体どんな景観なのか非常に興味を抱いたのですが、直後に訪れたこのカリフォルニア州のヴァルシナ農場がまさにそうした大規模なジャージー農家でした。

総飼養頭数は全てジャージー種で2,400頭。1頭あたりの一日の乳量は30kg。広大な敷地に4つのフリーバードンがあつて600頭ごとに分けられており、搾乳の際には300頭ずつパーラーに移動します。パーラーは50頭のロータリーで、直前にロボットによりシャワーで丹念に洗浄が行われます。搾乳待ちで数百頭のジャージー牛がひしめき合う光景はまさに圧巻の一言。搾乳スタッフは4人で、前搾り、乳頭のデッピンング、拭き取り、ティートカップの取り付けを流れ作業で手際よく処理されていました。全ての牛には耳にタグが付けられ、コンピュータがIDを自動で読み取って個別に乳量を管理しています。

当日案内をしていただいた経営主のティム・ウィックストロム氏によると、育成牛は全て別の専用牧場に預託しており、こちらには搾乳牛と子牛しかいないそうです。飼料は、所有する300エーカーの農地で栽培した高消化性、高カロリーのBMRという遺伝子を利用したコーンサイレージがメインで、ウィート

◀ ヒルマー・チーズ工場



▶ 給餌トラックの内部



◀ 給餌トラック



▶ ヴァルシナ農場 600頭収容の広大なバーン



搾乳待ちでひしめき合うジャージー牛

ストロー、綿実、菜種粕、アーモンド粕等を給餌トラックでミックスして給餌しているとのこと。このカリフォルニアとは別に、6件の農家と共同ですがテキサスでも農場を経営されており、そちらの飼養頭数はなんと3,600頭だそうです。

【講演】米国の酪農情勢について

本会の生野サンフランシスコ事務所長による米国酪農事情、粗飼料情勢についての講演を受講しました。

2010年の酪農家戸数は6万2千5百戸で、日本の約3倍と依然として世界最大の酪農国ですが、小規模層を中心に離農が続いており、10年前と比較して約36%も減少しているそうです。一方経産牛頭数は912万頭で、こちらは乳価に連動して増減を繰り返しています。酪農事情はというと、2008年前半から2009年後半にかけてリーマン・ショックや飼料価格の高騰によりどん底の状態でしたが、2011年は乳製品相場的好転により乳価は上昇しており、世界的な乳製品需要もあって生乳生産量は順調に回復しています。それでも、どん底時の負債のカーがまだ不十分で、飼料価格の上昇により、酪農経営は依然として厳しい状況にあるようです。

また北米産乾草市場の変化についても説明があり、アルファルファを中心にアラブ首長国連邦と中国への輸出が

2009年以降急激に跳ね上がっている、日本の存在感が年々小さくなっている実情が理解できました。

最後に

今回の視察では、世界最高峰の共進会であるロイヤル・ウィンター・フェアや本場北米の優良な酪農家を、直に目のあたりにすることができ、非常に貴重な体験をさせていただきました。当ツアーと共に過ごした19名の皆様始め、全ての関係者様に深甚のお礼を申し上げます。

(全酪連 指導・企画部 中村 宏行)



▲ロータリーパーラー 一頭ずつ乳量をコンピューターで管理

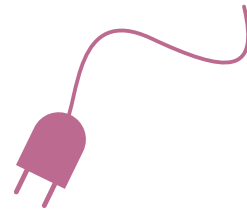


▶ オーナーのティムウィックストロム氏



◀ 生野サンフランシスコ事務所長による講演

この冬の節電 & 夏の電力需給見通し



この冬の電力需給バランスについては、昨年の夏ほど深刻な見通しではないものの、政府は、計画停電の実施や需給ひっ迫による停電の発生を避けるために、各企業・各家庭において節電に取り組むよう協力を依頼しています。

この冬の節電実施期間

平成23年12月1日～平成24年3月30日の平日午前9時（九州電力管内は午前8時）から午後9時においては、全国で節電に取り組むこととされていますが、関西電力管内と九州電力管内においては、特に供給が厳しい状況となる時期に具体的な節電の数値目標が設けられています。

〔関西電力管内 昨年対比▲10%以上節電目標期間〕

平成23年12月19日～平成24年3月23日の平日午前9時～午後9時

〔九州電力管内 昨年対比▲5%以上節電目標期間〕

平成23年12月26日～平成24年2月3日の平日午前8時から午後9時

ウォーム・ビズに取り組もう！

ウォーム・ビズとは、寒いときは厚着をして、過度に暖房機器に頼らず、エネルギー使用量を削減することによってCO₂発生を削減し、地球温暖化を防止することを目的とした、環境省が提唱している取り組みです。

政府は、今冬の節電の一環として、事務所においては19℃に設定する等、適切な空調の使用・管理を行いつつ、快適に過ごせるような工夫を積極的に取り組むよう要

請しています。

ウォーム・ビズには、空調の設定温度の他、衣・食・住における様々な取り組みがあります。

〔参考URL <http://www.challenge25.go.jp/>〕

使用最大電力(kW)を抑える

使用最大電力(kW)とは、ある時点での電気の量を示す単位のことです。ピーク時の使用電力抑制の効果を把握する等に使われる数値になります。使用電力量(kWh)とは、電気の総量を示す単位です。電力需給対策において必要なのは、使用最大電力(kW)の抑制です。

高圧受電契約の方は、実績が検針票もしくは請求書に実績が記載されていますので、前年同月の最大値を下回る、もしくは目標数値まで抑制することを意識しましょう。

低圧受電契約の方においては、検針票等に使用最大電力(kW)が記載されていないことから、前年同月の使用電力量(kWh)を参考に、ピーク期間・時間帯を意識した節電を行いましょ。

今後の需給状況

～今年の夏も節電は不可避～

原発の再稼働がなく、震災前の2010年夏並みのピーク需要と

なった場合は、全国的に約1割の供給不足となる見通しです。

昨夏の節電実績を前提とすれば、日本全体で+4.1%の予備率

〔※〕が見込まれていますが、一方で、長期停止していた火力発電の復帰の遅れ等のリスクがあるため、合計約▲3.1%の供給減の恐れがあります。

計画停電や、電気事業法による使用制限は、生産・産業活動に大きな影響を与えることから、これらを回避することを目指し、予算や制度改革の支援により、無理のない範囲での節電の定着を図ることとされています。

それでも需給見通しが厳しい地域があるため、数値目標を含んだきめ細かな節電要請が検討されています。具体的な対応は、今春に政府が決定し、公表する予定です。

〔※〕設備事故や需要の予想外の急増の際にも安定して電気を供給するために、供給力にゆとりをもたせていて、需要に対する供給予備力の比率を供給予備率という。安定供給の目安は8～10%。

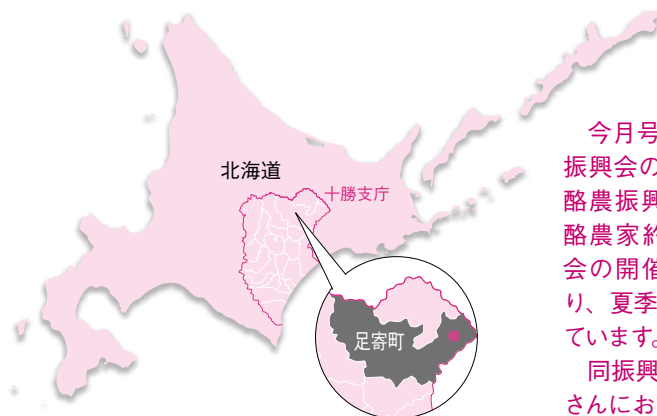
出典：内閣官房 国家戦略室 エネルギー・環境会議／電力需給に関する検討会合 資料より



地域全体で取り組む活動が、 明日からの営農意欲に

今月号では、北海道上足寄地区の酪農振興会の活動をご紹介します。上足寄地区酪農振興会は、現在、上足寄周辺地区の酪農家約20名で構成されています。勉強会の開催や視察旅行を積極的に行っており、夏季には地元特産品の販売活動も行っています。

同振興会について、会長を務める大西慎司さんにお話を伺いました。



上足寄グループ代表大西氏

主な活動内容

家族ぐるみで参加の学習会

同振興会では農業経営に必要とされる基礎知識や技術の習得のため、自分たちで企画を行い、講師をお願いして学習会を行っています。この学習会は、夜の搾乳が終了したあと地区の集会施設に、旦那だけでなく搾乳に従事する人たち全員（おじいちゃん・おばあちゃん・実習生）にも参加を呼びかけ、限られた時間を有効に使い学習しています。その際には、女性の家事への軽減のためお弁当の用意もしています。経営主1人で参加するこ

とが多い学習会ですが、女性も参加することにより、家庭の中で経営の細かいところまで同じ立場でいろいろな意見を言い合うこともでき、地域の信頼関係の構築にもつながっています。

この学習会のきっかけは、平成4年ごろに地区の乳質に問題があったためです。この問題はバルク車で各農家の生乳が混ざるため個々の農家だけの問題ではなく、地域各戸の共通認識が必要であり、乳房炎・搾乳衛生・ミルカー点検等、4～5年かけてこの問題に取り組みました。

それからは80数回、いろいろなテーマで学習会を開催しています。テーマは酪農をとりまく「ちょっと困った事」です。たとえば、畜産農家では、悪臭やハエ等の公衆衛生問題があります。そこで本州からハエ等の専門家を招き、畜舎や生乳処理室など発生源に応じた対策の立て方から、ハエのライフサイクルまで学習し、ハエ駆除プログラムまで作成しました。

このように、地域で起きている小さな疑問も見逃すことなく学習材料として取り上げ、「ちょっと困った事」の解決に取り組み、その積み重ねをしていくこと

勉強会風景



が個々の自信や経営改善につながっています。

単体肥料配合

平成17年からは、肥料コスト高騰対策の取組みとして、単肥配合を行う酪農家を地域内で募り、共同での作業を行っています。十勝農業改良普及センター十勝東北部支所の指導のもと、個々の農家のそれぞれの畑の土壌分析を行い、その結果に合わせて単肥を配合しています。これによって良質な粗飼料生産ができるようになり、牧草の嗜好性アップにつながっただけでなく、大量購入による肥料コストの削減にも成功しています。

地域環境整備

私たちの地域は、観光道路でもある国道241号線が通っているため、交通量が非常に多く、特にシーズン中は観光バスやマイカー、バイクが頻繁に行き来し、訪問者も多いです。国道際のごみや廃棄物の清掃撤去を行うほか、女性を中心となって、農場周辺の環境整備として花の苗を全戸に配布し、花壇の整備を行っています。

またこの地区は阿寒国立公園に面していることから、エゾシカの被害が非常に多い地域です。樹脂ネットが総延長68kmもあり、毎年熊の侵入やエゾシカの激突で壊れたところを皆で修理しています。

夏季特産品販売

足寄町農協上足寄事業所において、都市住民との交流、地元農畜産物のPRを兼ねて直売を行っています。毎年8月13～15日の3日間で、多くの人たちが賑わいます。

グループ名	上足寄地区酪農振興会
会長	大西 慎司
地区	上足寄周辺地区
構成	酪農家
メンバー数	約20名
地区総戸数	10戸



夏季特産品販売風景

この特産品販売は、約30年前の路上販売からスタートしましたが、今ではこの日を目指して全道各地はもとより本州からも決まって立ち寄ってくれるお客様もいます。毎年、ゆでジャガイモの無料食べ放題は特に大好評です。他にも、トウモロコシ・かぼちゃ等の農産物やいもち、フランクフルト等の軽食を販売するだけでなく、アンケート調査や写真サービスを行っています。旅行者の方からは、「ここまで来るのに畑にあった作物は何か?」とか、「牛がいっぱいいた

今後の目標

が、どんな牛がいるのか?」等、多くの質問があり、とても楽しい3日間となります。見知らぬ人や都会に住む人たちの会話や交流を通して、私たちは、新鮮なエネルギーを受け明日からの営農意欲に役立てています。

今まで中心に活動していたメンバーから徐々に世代交代の時期にきています。若い世代が積極的に活動の中心となつ



単肥混合協同作業風景

て、TPP等の問題に立ち向かっていくように、これまで取り組んできた活動だけでなく、新しい取組みも行っていきたいです。

単体肥料配合作業を行っている忙しい時期にも関わらず、取材依頼を快く引き受けていただいた大西慎司さんと上足寄地区酪農振興会の皆様のご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。

東京
支所発

平成23年度関東甲信越酪農青年女性会議研修会開催

11月29日(火)、品川プリンスホテル ボウリングセンターにて関東甲信越酪農青年女性会議(野村栄一委員長)の平成23年度研修会が開催されました。今年度は東日本大震災の影響により、年間活動計画の中止や延期が相次いだため会員が一堂に会する機会が減少しています。そこで、老若男女を問わず参加することのできる、ボウリング大会を実施する事となりました。

当日は男女ほぼ同数が参加され、合計約90名により22レーンを利用する盛大な大会となりました。日頃の農作業で鍛えた豪快な投球でピンを飛び散らす方、スローモーションの様な丁寧な投球をされる方等、皆さんそれぞれのフォームで2ゲームをプレイしました。女性にハンディーキャップを付ける男女混合で順位を決定し、1ゲームのハイスコア205か



▲ 挨拶する野村委員長

らロースコア(?) 48までの熱戦を繰り広げました。

その結果、栃木県酪農青年の日高裕子さんが見事総合優勝の栄誉を勝ち取られ、豪華賞品が委員長より贈呈されました。飛び賞、11月29日にちなんだ11位と29位の当日賞等の



▲ 総合優勝栃木の日高さん



▲ 牛乳で乾杯

表彰に続き、残念ながら表彰されなかった参加者による大じゃんけん大会が行われ、盛会の内に表彰式を終了しました。

又、ボウリング大会終了後にグランドプリンスホテル新高輪、レストラン「マルモラーダ」に会場を移し懇親会を行いました。相馬顧問による乾杯の発声により会食が始まり、運動で良い汗をかいた後でも

あったことから、11月29日「いい肉の日」にちなみローストビーフ等の牛肉料理を中心に(?)、皆さん大いに料理をおなかの中に収めつつ、地域の枠を超えて酪農友同士の懇親を深めておられました。

品川と言う立地から、懇親会後はお買い物に行かれた方もあり、それぞれに楽しい一日となりました。

(N.H)

▶ ストライク!



名古屋
支所発

元気いっぱい「わくわくモーモースクール」開催

11月17日(木)、東海酪農業協同組合連合会（伊藤敏之代表理事会長）主催の「わくわくモーモースクール」が開催されました。

今回の訪問は、愛知県半田市立花園小学校。酪農家を見学したいとの先生の要望から本教室の開催が実現しました。3年生を対象とし開催された本教室は、「座学」と「バター作り体験＋試飲・試食」を中心に進められました。

「牛のなるほど百科 牛乳が届くまで」と題して開催された教室では、酪農家の清水ほづみさんと原田拓芳さんが牛の模型や資料を使いながら、牛の特徴や酪農業について、子供たちに説明されました。

次に名古屋牛乳株式会社 野瀬吉弘常務取締役が消費者に牛乳が届くまでにどのような行程を通り消費者に届くのかについて説明されました。

授業が終わると、子供たちからはたくさんの質問があげられました。中でも多かった質問が、「牛はどのくらいまで生きるの?」という質問で、牛も人間と同じ哺乳類であり、人間と同じような個体差があることを丁寧に原田さんは説明されていました。



▲ 原田拓芳さんによる説明

もうひとつの授業は、みどり乳業株式会社の八木義行取締役販売部長の指導のもと「牛乳のはてな? バター作り体験＋試飲・試食」と題して、バター作り体験と成分調整牛乳と無調整牛乳の飲み比べを行いました。

バター作りは、あらかじめ冷やしておいた生クリームが入ったコップを一生懸命に振り作ります。出来上がったバターを試食した子供たちは、生クリームから出来るバターを不思議そうに眺めながらも、満足した面持ちで試食していました。

最後に子供たちと一緒に給食をいただき、子供たちとの交流を深め本教室は終了しました。



▲ 手作りバターの試食の様子

名古屋
支所発

愛知県酪農農業協同組合青年女性部 白熱！全体研修会

12月9日(金)、愛知県岡崎市の「愛知県畜産総合センターふれあいドーム」において、愛知県酪農農業協同組合青年女性部(森 富士樹部長)の全体研修会が開催され、愛知県の各地域から50名の参加があり、「ソフトバレーボール大会」と「キャンドル作り」のイベントを行いました。

ソフトバレーボールは男女混合で6つのチームに分かれ、真剣にバレーボールを追いかけていました。当日は一段と冷え込んだ気候でありましたが、参加者は汗だくになりながら、プレーしていました。点が入るとハイタッチで喜び、負けるとうなだれるというまさに一喜一憂そのもの。

また、コート横ではキャンドル作りが行われ、クリスマスも間近に控えているため、参加者は熱心に作り上げていました。

「ソフトバレーボール大会」と「キャンドル作り」を楽しんだ後は、2種類の牛乳鍋で体を温めました。一つ目



▲ ソフトバレーボール大会

の鍋は「三英傑牛乳鍋」。愛知県と言えば歴史上に名高い、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の出身地です。この「三英傑」にちなんで考案されました。三河湾で獲れたワタリガニと名古屋の名産である手羽先、最後に牛ホルモンを岡崎八丁味噌と牛乳で煮込み完成です。二つ目の鍋は「カレーミルク鍋」です。カレーの風味と牛乳がマッチしたまさに「味の総合デパート」です。

その他には、皆さんが作った手作り料理が持ち込まれ、おなか一杯いただき、親睦を深めて、本研修会は終了しました。



◀ キャンドル

▶ 三英傑牛乳鍋



▲ キャンドル作り

レシピが見たい方は、下記をご覧ください。 東海農政局「地域交流牧場全国連絡会牛乳鍋コンテスト」
http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/edu_farm/H23/gyuunyuunabe.html

大阪
支所発

酪友フォーラム in 淡路島

— 今年も参加型パネルディスカッションを実施 —

12月1日(木)、夢海游淡路島(兵庫県洲本市)で西日本酪農青年女性会議主催の酪友フォーラムが開催されました。今年で18回目の開催となる当フォーラムは3部構成で第1部に(株)微生物化学研究所の函城 悦司さん、第2部に全酪連購買部 酪農生産指導室の丹戸 靖課長代理による講演、第3部では管内の会員酪農家3名を交えたパネルディスカッションを実施し、近畿・中国・四国エリアの100名を超える酪友および関係者が参加しました。



▲ 祝辞を述べる池田 組合長

二若委員長の開会挨拶に続いて、淡路島酪農農業協同組合の池田代表理事組合長よりご祝辞をいただいた後、開催地の洲本市で出身の函城さんより、「西日本から酪農を元気にしましょう！～特に生産性向上をめざして～」と題して、乳量アップにつながる飼養管理面の工夫やアドバイスを交えた講演をいただきました。

第2部では全酪連購買部の丹戸課長代理が「ゆでガエルにならないための酪農経営」と題して講演しました。急激な変化に対応できても、わずかな温度の変化に気付かず致命傷を負うことを「ゆでガエル」にたとえ、酪農経営においても毎月の記帳管理や地域での定期的な入力会など、日々の経営のわずかな変化に気付くための仕組み(習慣)をつくり、把握した情報を経営者間で共有することの重要性が伝えられました。

第3部では、第2部にリンクしたテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネラーに徳島県酪農青年女性会議の大松 弘実さん(阿波市)と向 日登美さん(藍住町)、広酪メンバーズクラブの山延 伊久江さん(東広島市)、丹戸課長代理の4名を迎え、全酪連購買部の三輪 達雄特別嘱託員がコーディネーターとして進行しました。まず冒頭に、話題提供として大松 弘実さんから、ご自身が結成した近隣5戸との勉強会Desse Zenny(逆さに読むと、「^{デッセ}でっせ」)の取り組みを紹介いただきました。この勉強会は夫婦で参加が絶対条件で、「牛を健康に飼うこと」と、その名の通り「お金はあとからついてくる」を方針に、10年前に結成。自宅で行われる勉強会の様子やメンバーの写真がスライド



▲ 経営管理や継承に関する会場アンケート結果を共有しながらパネルディスカッションを実施

で紹介され、「夫婦一緒に参加することで、牛舎に戻っても同じ目線で話ができ、経営改善に向けての実践がス



▲ パネラーの皆さん(左から大松さん、向さん、山延さん、丹戸課長代理)

ムーズになる。仲間同士の勉強会に限らず、研修会にはぜひ夫婦で参加してみてください！」とのメッセージが伝えられ、グループ活動の効果や継続の秘訣についても教えていただきました。

大松さんの発表に続いて、第2部の講演中に会場の参加者から回収・集計した経営管理・継承などに関する12問のアンケート結果をスライドに写しながら、パネルディスカッションを行いました。前述の勉強会の一員でもあり、4年前からDMSシステムに参加されている向さんからは、月次決算を始めてからの意識の変化や、来年経営を引継ぐ山延さんからは、後継者として経営継承の経緯等についてコメントをいただき、会場からは「いつまでも先代が通帳を握っていては後継者が育たない」「今からでも地域の勉強会で仲間と切磋琢磨してみたい」などの意見が出されました。

来年以降も地域を越えた酪友の交流の場として、さまざまな企画で実施されます。(N.T)



大阪
支所発

なでしこリーグ公式戦&女子バレーV・リーグ開幕戦で消費拡大！ — おかやま酪農業協同組合 —

おかやま酪農業協同組合（千葉 靖代表理事組合長）は牛乳消費拡大運動の一環として、11月～12月の県内スポーツイベントに合せて岡山県産の牛乳・乳製品を選手に贈呈するなど牛乳消費拡大イベントを実施しました。

11月13日(日)に美作ラグビー・サッカー場（美作市）で行われた岡山湯郷Belleなでしこリーグ公式戦では選手・関係者に飲むヨーグルトや全酪スモークチーズが贈られたほか、先着500名の来場者に牛乳（200ml）が配布されました。ハーフタイムにはグラウンドで牛乳瓶の拡大パネルを目録に記念品が贈呈されたほか、女性部 岸本委員長より牛乳・乳製品のセットが贈呈されました。

続いての活動は、女子バレーボールのV・プレミアリーグ開幕に合せて行われました。12月10日(土)、岡山シーガルズ対JTマーヴェラス開幕戦が岡山県総合グラウンド・桃太郎アリーナ（岡山市）で行われ、千葉組合長、女性部 平野副委員長、青年部 二若顧問から各8チームに牛乳・乳製品などが贈呈されました。

当日は「岡山県デー」としてアリーナ前の広場にテント村が設置され、ご当地B級グルメの販売やもちつき大会などのイベントが行われました。おかやま酪農協は県産の豚肉を使用したみるく鍋や牛乳もちの試食販売を実施し、ホームゲームを盛り上げるとともに来場者へのPR活動を行いました。



▲ 湯郷Belleなでしこリーグ公式戦のハーフタイムで乳製品セットを贈呈する岸本委員長



▲「岡山の牛乳・乳製品消費拡大にご協力をお願いします！」女子バレーV・プレミアリーグ開幕戦でもPR



▲ 牛乳もちを試食する岡山県知事



▲ 販売ブースの様子。作り方に興味津々の来場者

酪政連活動報告

(平成 23 年 10 ~ 12 月)

日本酪農政治連盟

10/31	三役会議 (委員長、副委員長、常任顧問、中央団体常任委員、幹事長ほか) ◆ 今後の TPP 反対運動について ◆ 「経済連携 PT (座長:鉢呂前経産相)」に出席	11/14	TPP 対応検討協議会幹事会 (幹事長) ◆ 102 団体のうち幹事団体による会合 ◆ 今後の TPP 反対活動に関する意見交換
11/1・2	「TPP 反対」要請活動 (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 山田正彦前農水相ほか主要国会議員	11/17	TPP を慎重に考える会勉強会 (委員長、副委員長、幹事長ほか)
11/4	TPP 反対総決起集会(TPP を考える国民会議主催)に参加 (委員長、副委員長、幹事長ほか全国より 95 人参加) ◆ 憲政記念館にて開催 ◆ 金子勝慶応義塾大学教授ほかが TPP に係る説明、報告、発言	11/21	TPP を考える国民会議世話人・賛同団体代表者、TPP を慎重に考える会国会議員との対話集会 (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 保険に関する現状と米国の意図に係る講演
11/5	TPP 反対街頭演説会(TPP を考える国民会議主催)に参加 (委員長、副委員長、幹事長ほか 25 人参加) ◆ 中野剛志京都大学大学院準教授ほかが反対演説を行う ◆ 演説会終了後、日比谷公園～農水省前～首相官邸前～議員会館前～自民党本部前の経路でデモ行進(約 1,500 人)	11/22	民主党酪農畜産 WT・食の安全安心 WT 合同会議 (幹事長ほか) ◆ 牛肉輸入制限緩和に係る各省庁からのヒアリング
11/7	TPP を慎重に考える会集會に参加 (委員長、幹事長ほか)	11/24	TPP を慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか) ◆ 牛肉、保険、自動車に関する情報
11/8	TPP 反対 6,000 人大会(全中他共催)に参加 (委員長、幹事長)	12/6	三役会議・合同委員会 ◆ TPP 参加阻止活動の経過と今後の活動、24 年度予算確保が議事 ◆ 来賓として山田正彦議員(TPP を慎重に考える会会長)
11/9	自民党 TPP 即時撤回を求める会に参加 (委員長、幹事長ほか)	12/6・7	要請活動 (委員長、三役ほか) ◆ TPP、予算に係る要請 ◆ 鹿野道彦大臣ほか数名の議員へ要請
11/9	TPP 反対要請活動 (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 山田正彦前農水大臣ほか主要国会議員	12/9	民主党酪農畜産 WT (副委員長、幹事長ほか) ◆ 24 年度予算等の要請
11/10	TPP 反対座り込み集会(TPP を考える国民会議主催)に動員協力 (委員長ほか計約 100 人)	12/15	自民党畜酪・畜産議連・酪政会合同会議 (委員長、幹事長ほか) ◆ 輸入牛肉規制緩和に係るヒアリング ◆ 24 年度予算に係る要請
11/11	野田佳彦首相の TPP 会見「参加に向けて関係国との協議に入る」	12/16	TPP を慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか) ◆ 米国カーク通商代表補の来日内容のヒアリング等
11/14	野田佳彦首相が APEC 首脳会議で「参加に向けて関係国との協議に入る」旨、表明	12/20 12/22	三役要請活動 (委員長、副委員長、常任顧問、中央団体常任委員、幹事長ほか) ◆ 24 年度予算確保について要請活動 ◆ 筒井信隆副大臣、藤田幸久財務副大臣ほか主要国会議員へ要請



No.224
林牧場
三重県玉城町

▲ 右から英一さん、とわさん、文彦さん、従業員の出崎さん、辻さん

循環型酪農の実践

地域の紹介

三重県度会郡玉城町は、伊勢平野の南部に位置しており、東には伊勢神宮で名高い伊勢市が隣接、西には高校生レストランとして有名な多気町があります。

町の中心は、古来の陸上交通の要地で初瀬街道と熊野街道が合して伊勢に通じており、歴史ある町として知られています。

今回ご紹介します林英一牧場は、大内山酪農農業協同組合（谷川原万欣代表理事組合長）に所属しています。大内山酪農農業協同組合の現在の酪農家戸数は31戸。平成22年度年間生乳生産量は30,014tです。

牧場の経緯

林英一牧場はご主人の英一さん、奥さんのとわさん、息子さんの文彦さんの3人家族です。ご主人の英一さんは昭和39年に高校卒業後、北海道の酪農学園短期大学で酪農について学ばれた後、昭和44年に就農されました。

牛舎全景



和牛で有名な松阪に近いこと

から、北海道に行く前は肉牛を飼養したいという想いがあったそうですが、酪農学園短期大学で学ばれたのを機にホルスタインを飼いたいと思うようになったそうです。

昭和47年にはロストル式つなぎ牛舎を建築され、昭和63年フリーストールとバーラーを建てられました。英一さんの代から営農されているため、牛と接することも初めてであり、初期の頃は、事故やトラブルが絶えず、大変だったそうです。

牧場の敷地内には、以前取り組まれていたサイレイジ作業（とうもろこし、イタリアン、えん麦）に使用されていたサイロがあり、昔をうかがい知ることができます。

現在は、林さん自身はサイレイジ作業はやられておりませんが、大内山酪農農業協同組合として、稲ホールクroppサイレイジを刈り取り、それを給餌しています。



経営概況

牛舎はフリーストールとつなぎ牛舎の併用です。現在の飼養頭数は、成牛80頭、育成28頭（うち全酪連預託13頭）で、パーラーは6頭ダブルの12頭搾乳です。

労働力はご家族3人とパート従業員2名で行われています。作業形態は、搾乳は、とわさんと従業員の方で行われており、作業の統括を英一さんと文彦さんで行われています。

給餌はTMRで朝晩2回給餌。TMRの内容は、粗飼料がスーダン、チモシー、アルファルファ、ホールクロップサイレージ、その他に配合飼料（大内山CF、大内山ベース）ビートパルプ、コーンジャーム粕を



大内山酪農農業協同組合として取り組んでいるホールクロップサイレージ



パーラー施設

給与されています。さらにトップドレスでチモシーを給与しています。

大内山酪農農業協同組合の取り組み（ホールクロップサイレージと飼料米）

ホールクロップサイレージは大内山酪農農業協同組合の取り組みとして行われており、まさに循環型酪農を行われております。

また、飼料米使用にも取り組まれており、ここでも循環型酪農が実践されています。

女性部、青年部での取り組み

とわさん、文彦さんともに対外活動には積極的に参加されており、研修会で学ばれることも多いそうです。

す。哺育の勉強会等で、学んだことを実践することで子牛の状態が良くなったと話されておりました。

文彦さんは、4Hクラブ（全国農業青年クラブ連絡協議会）の活動に力を注いでおり、酪農以外の農業分野でも関わりも多く、農業異業種との交流の中で勉強することが多岐に亘ると話されていました。

堆肥の取り組み

林牧場の注目すべきところは堆肥への取り組みです。堆肥はバンクリーナーで運ばれ、バンクリーナーの最後には穴がおりており、小さいものは分離機にかけ発酵槽に入れ、大きいものはそのまま発酵槽に入るようにしています。

平成17年に完成させた発酵槽（幅4m×高さ55cm×長さ80m×2本）に入れ、発酵させますが、ここに水分調整剤として戻し堆肥を入れて調整します。更にここから、乾燥ハウス（幅4m×深さ10cm×長さ60m×2本）で乾かし、堆肥を完成させます。

出来上がった堆肥は、水分が40%以下を保ち、発酵槽だけでも十分な乾燥をしている中で、乾燥ハウスを通ることで更に水分を飛ばし良質な堆肥に仕上げています。驚くことは水分調整としてオガ粉や籾殻も使用していないところです。出来上がった

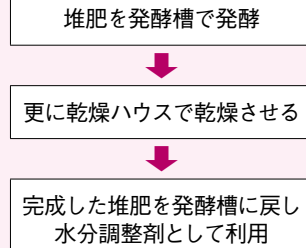


発酵槽



乾燥ハウス

堆肥の流れ(循環型堆肥システム)



た堆肥を水分調整剤として入れることでコストの削減に努めているとともに、循環型の堆肥システムを構築されています。



完成した堆肥

一代で堆肥システムから牛舎建築を2回行い、現在の営農スタイルを

最後に

今後の取組みは排水処理に力を注ぎたいと英一さんは語られます。現在は、排水は全てバキュームカーとスラリインジェクターで畑にすきこまれています。非常に手間がかかるそうです。それを自然流下出来れば、無動力で行うことができ、労働力の削減になることで、他に力が注げると意欲満々に話されていました。

今後の目標

作り上げた英一さん。笑って牧場の経緯を話していただきましたが、その裏に苦労の連続があったことがうかがえます。

訪問させていただいた中で、感じたことは常にチャレンジを忘れない心がありました。初期の頃、失敗ばかりで酪農を辞めようと思ったことが何度もあったとか。それでも辞めずに続けてこられたのは、

「当時はみんなが苦労しており、自分だけが大変なわけではない、みんなも共に苦労しているのを見ている中で、辞めるわけにはいかない」という強い気持ちがあったそうです。周りは以前から酪農をしていましたが、英一さんの場合、酪農の土台がなかったため、「失敗して当たり前、失敗を恐れる気持ちなどなかった」と、話されていました。

現在でもその気持ちは変わらず、常にチャレンジする気持ちは持ち続けてられており、今後の目標を語られるその目には将来の青写真がしっかりと描かれておりました。まだまだ勉強中と語られる謙虚な姿勢と酪農の将来を語られる姿は、

林牧場の今後の成功を約束されているように感じました。

今後も地域での活動を軸にますます発展されることを祈念するとともに、今回の取材に協力していただいたことに心から感謝いたします。



牛舎写真

全酪連・酪農セミナー2012開催のご案内

“牛”を科学し、 飼料特性を活かす 栄養管理



これからの日本酪農を支える方々へのメッセージ

全酪連は、2012年2月にカナダ・アルバータ大学 乳牛栄養学准教授大場真人博士を講師に迎え、全国6会場にて、酪農セミナー（平成23年度）を開催いたします。
本セミナーでは、乳牛の代謝メカニズムを正しく理解し、酪農現場で起こる様々なトラブルを解決するためのヒントを皆様にご提供できるものと思っております。乞うご期待ください。

テーマ

“牛”を科学し、飼料特性を活かす栄養管理
～これからの日本酪農を支える方々へのメッセージ～

日時 場所

2月 8日	帯広セミナー	十勝NOSAI会議室（帯広市）
2月 15日	東京セミナー	品川プリンスホテル（港区）
2月 16日	岡山セミナー	岡山国際交流センター（岡山市）
2月 21日	熊本セミナー	グランメッセ熊本（上益城郡）
2月 22日	名古屋セミナー	名鉄グランドホテル（名古屋市）
2月 27日	仙台セミナー	仙台国際センター（仙台市）

全会場とも、開会10:30 ～ 閉会 16:00

セミナー 内容

【第1部】移行期の栄養管理

- 1章 分娩移行期に代謝障害が起こる理由
- 2章 肝臓に負担をかけない栄養管理
- 3章 ルーメンに負担をかけない栄養管理

【第2部】泌乳前期の栄養管理

- 1章 エネルギー摂取量を高めることの大切さ
- 2章 油脂の上手な使い方
- 3章 デンプンの上手な使い方

【第3部】トラブルを乗り切る栄養管理

- 1章 ヒート・ストレスへの対応
- 2章 トラブル・シューティングの方法
- 3章 乳牛飼養管理の“常識”を検証する

参加費

1名様 ￥5,000（昼食代含む）

対象

酪農家・組合役職員・公的機関指導者
あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々



大場真人博士 略歴

1988-1990年
北海道・ニュージールランド・長野県で酪農場勤務
1990-1992年
青年海外協力隊でシリアへ
1995年
アイオワ州立大学農学部酪農学科卒業
1998年
ミシガン州立大学修士課程終了（乳牛栄養学）
2002年
ミシガン州立大学博士課程終了（乳牛栄養学）
2002-2004年
メリーランド大学研究員、非常勤講師
2004-2008年
アルバータ大学 乳牛栄養学助教授
2008-現在
アルバータ大学 乳牛栄養学准教授

【メッセージ】

私は20年前、牛飼いになりたいと思っていました。諸々の事情から夢がかなわず、今はカナダの大学で働いていますが、私の研究の原点は若かった時の牧場での体験です。このセミナーには、これからの日本の酪農を支えていく方々、特に若い酪農家の方にたくさん来ていただきたいと考えています。普段、牛と接している皆さんは、牛が発する様々なメッセージを感じ取るための経験を積まれていると思いますが、“牛を科学”する知識を身につけられれば、牛飼いとしてさらに大きく成長していくことが出来るはずです。セミナーでお会いできるのを楽しみにしています。

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



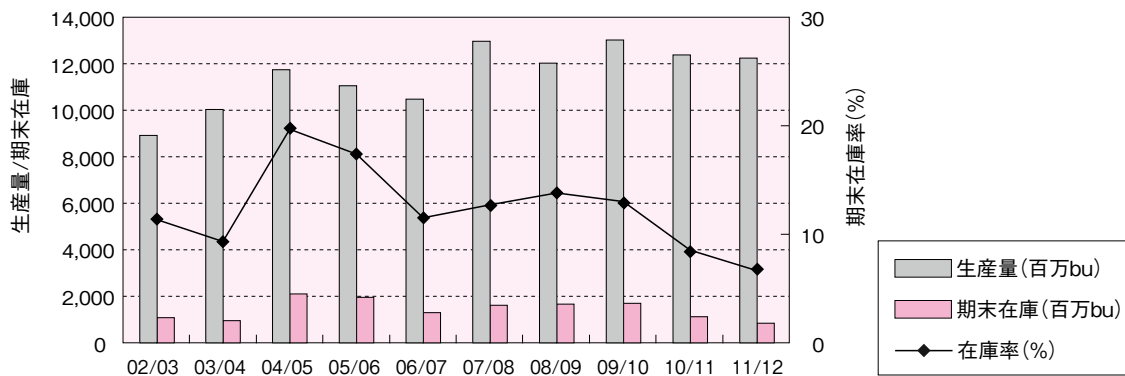


原料情勢

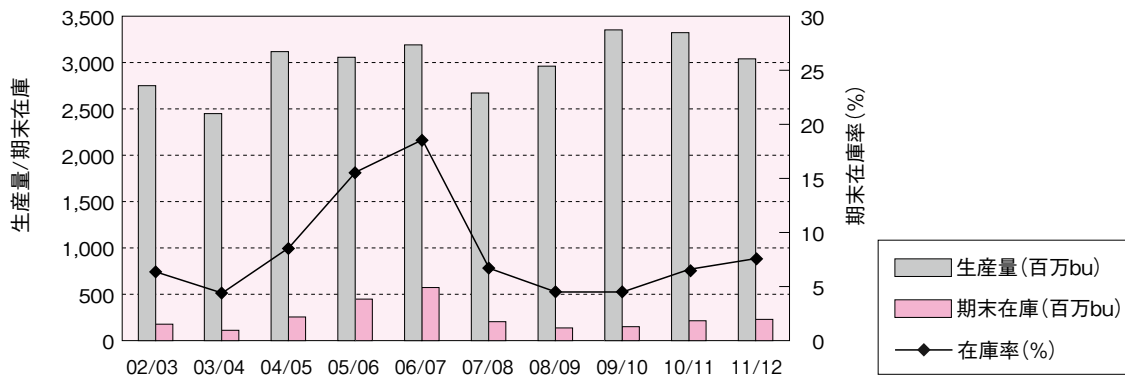
平成23年12月

12月9日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【10/11年産】 作付面積88.2百万（前月88.2百万）エーカー、単収152.8（152.8）bu/エーカー、生産量124億4,700万（124億4,700万）bu、総需要量130億5,400万（130億5,400万）bu、期末在庫11億2,800万（11億2,800万）bu、在庫率8.6（8.6）%。
	【11/12年産】 作付面積91.9百万（前月91.9百万）エーカー、単収146.7（146.7）bu/エーカー、生産量123億1,000（123億1,000）bu、総需要量126億500万（126億1,000万）bu、期末在庫8億4,800万（8億4,300万）bu、在庫率6.7（6.7）%。
トウモロコシ相場動向	今後のシカゴ相場は、中国の生産量見通しが事実であれば短期的に米国産を買付ける必要はなく、下げ材料視されると考えられる。しかしながら、年末の薄商いの中急激に上昇する可能性もあり注意が必要である。
国内産大豆粕	国内需給については、国産大豆粕発生量は依然低調で数量に大きな変化は見られない。輸入大豆粕は引き続きインド産の入船が増加している。価格については、輸入大豆粕相場はシカゴ相場が弱含んでいるため、軟化しており、この影響から軟化傾向となっている。
槽糖類	一般ふすまは、配合割合は横這いで推移し、高い水準を維持していると思われる。小麦の挽砕量は相変わらず低調な様子であるが、しばらくは受け渡しには問題ない見込み。グルテンフィードは、配合割合は若干減少していると思われる。発生量は急激に落ち込んでいる。このことから現時点で供給が不安定になりつつある。
海上運賃	海上運賃は中国向けの石炭需要が一服し徐々に下げる展開となった。今後については、年明け以降新造船が増えることが予想されるものの、引き続き太平洋水域の荷動きが低調なことから多くの船が他の水域に回り船数が少ないことと、燃料高から海上運賃の下げは限定的と考える。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成23年12月

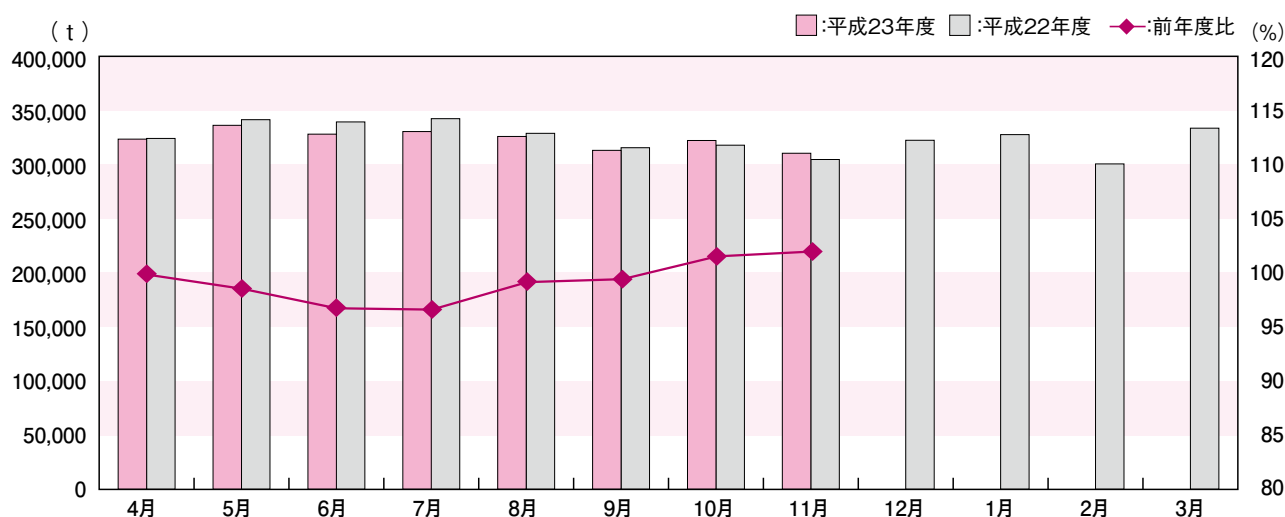
北米コンテナ船 フレート	11月上旬に、カリフォルニア州オークランド港でストライキが実行され、この影響で、同港出しの乾牧草の船積み遅延も発生したが、ごく一部でおさまっている模様。12月に入り、今度は同州ロサンゼルス港で一部ストライキが実行されたとの情報が届いている。PSW、PNWともに、秋以降に各船社で減船やサービスの改変があり、船腹スペースがさらに減っているため、船積み遅延が目立ち始めている。
米国の乳価動向	5月から3ヶ月連続の値上げで推移してきた米国の乳価は、9月に入り値下げに転じ、10月もさらに値下げとなっている。今後も弱含みで推移することが予想されており、米国内酪農家は再び厳しい経営を強いられることになる模様。
ビートバルブ	【米国産】11年産ビート大根は、冷涼な気候が続いたため、10年産よりも20日ほど遅れて収穫が開始。その結果、作付面積は前年比で4-5%増加したものの、生産量は前年比で10%以上減少する見込み。また、収穫の遅れにより11年産の船積み開始が遅れていることから、年末に向けて非常にタイトとなることが予想されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン州】コロンビアベースンでは、11年産の収穫が終了。11年産1番刈、2番刈ともに雨当たり被害が多数発生。また、4番刈が収穫された圃場も少なく、全体の生産量が少ないうえに、BIG ベールでの収穫が増えており、11年産は3タイのプレミアム品が大きく減少している模様。BIG ベールでの収穫については、12年産以降もますます増えることが予想されている。
	【オレゴン産】産地のクリスマスバレーとクラマスフォールズでは、11年産の収穫が終了。産地での余剰在庫はほとんどない模様。生産効率を考慮してBIG ベールでの収穫が増えており、12年産以降も3タイのプレミアム品の確保が難しくなることが予想されている。
	【ネバタ産】ネバタ州では、単収は少なく、全体の生産量は大きく減少している。産地での余剰在庫はほとんどない模様。
	【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、11年産の収穫がほぼ終了。依然として国内向けや中国向けからの引合いが強いため、9番刈の収穫を試みようとする圃場もある模様。
	【ユタ産】4番刈は一部で雨当たり被害が発生し、生産量も少ない見込みから、プレミアム品の発生は非常に少なくなっている模様。産地での余剰在庫はほとんどない模様。また、積出し港（ロサンゼルス港）へのトラック輸送の確保が難しくなってきたり、アルファルファとヘイキューブは船積み遅延が多く見受けられるようになってきている。
チモシー	【米国産】コロンビアベースンとエレズバークでは、11年産の収穫が終了。総じて11年産の作柄は良い結果となっている。1番刈のプレミアム品はほぼ完売状態、2番刈は中間グレード品とローグレード品がわずかに残っている模様。産地では費用も発生し、価格が高くなることから、代替として米国産チモシーの需要が増える可能性も出てきている。
	【カナダ産】レスブリッジ、ドライランドともに、収穫が終了。今年はプレミアム品の発生が多く、ここ数年で最良の年となり、余剰在庫もほとんどない模様。米国産と同様に代替としてカナダ産チモシーの需要が増える可能性も出てきている。
スーダン	【インベリアルバレー産】産地では収穫が終了。11年産のハイグレード品は荷動きも順調で、引き続き高値で推移している。中間グレード・ローグレード品の価格は軟化する気配がない状況。産地での在庫もほとんどないため、追加買付けは厳しい状況となっている。
	【北カリフォルニア産】産地では10月下旬にようやく収穫が終了した。穀類や綿実などに転作した生産農家も多く、11年産の作付面積は30%以上減少しているため、産地価格は高値で推移している。産地での余剰在庫は僅かとなっているが、豪州産11年産オーツヘイの状況から、代替としてハイグレード品の引合いが増える可能性も出てきている。
クレイングラス	産地では収穫が終了。韓国と日本からの強い引合いが続いたため、産地での余剰在庫はほとんどない状況。追加買付けは厳しい状況となっている。
バミューダ	産地では収穫が終了。バミューダヘイ、ストローともに米国内酪農家から強い引合いがあるため、輸出向け供給量は減少し、産地での余剰在庫はほとんどない模様。
ストロー類	フェスキューは、雨当たり被害が多く発生している。8月中旬から収穫が開始したライグラスについては、雨当たり被害を免れた模様。11年産のストロー類は、良品の確保が難しいため、サプライヤーによってはフェスキューの雨当たり品も、ノーレイン品よりも多少安い価格で船積みを開始している模様。
オーツヘイ	【西豪州産】雨当たり被害が大量に発生し、深刻な事態となっている。ハイグレード品については、かなり限定的な数量となっている。早魃の影響で生産量が減少する一方で品質は雨にも当たらずハイグレード品ばかりだった10年産とは、全く違った状況となっている。輸出される見込みだった11年産の輸出向け数量は、半分以下となることが懸念されている。
	【南豪州産】雨当たり被害が多く発生している。ハイグレード品については、限定的な数量となっている模様。西豪州ほど酷くはない作柄・状況であるが、作付面積が前年比20-30%減少したことに加えて、単収が減少していることから、南豪州からの輸出向け数量も減少することが見込まれている。
	【東豪州産】11月上旬から降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生している。雨当たりを免れたノーレイン品は少なく、その中でもハイグレード品については、限定的な数量となっている模様。

平成23年度（11月）地域別生乳生産量

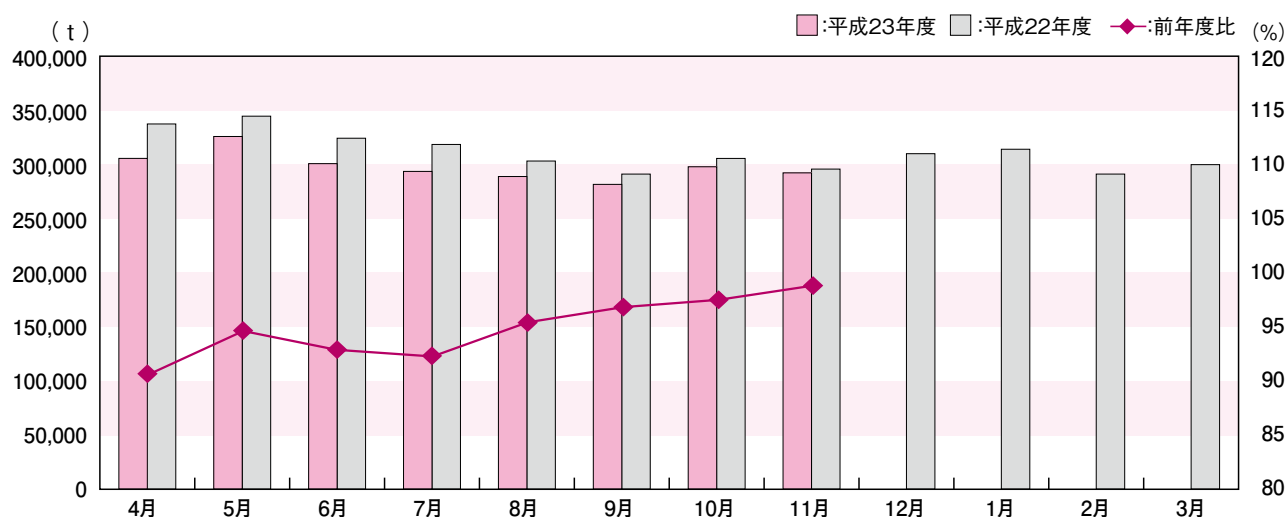
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
22 年度 11 月	600,134	304,554	50,077	8,258	87,800	10,905	32,350	16,391	24,391	11,317	51,837	2,254
12 月	632,110	322,312	52,694	8,665	92,108	11,136	33,742	17,290	25,234	11,845	54,759	2,325
1 月	641,451	327,537	53,142	8,877	93,653	11,185	34,441	17,468	25,489	11,994	55,379	2,286
2 月	591,460	300,485	49,135	8,301	86,294	10,298	31,730	16,199	23,639	11,160	52,094	2,125
3 月	633,178	333,487	37,250	9,365	85,702	11,482	35,953	18,426	26,825	12,663	59,613	2,412
23 年度 4 月	628,833	323,368	43,133	9,188	88,938	11,210	35,422	18,134	26,388	12,438	58,169	2,445
5 月	661,818	336,125	50,251	9,474	97,497	11,746	36,169	18,439	27,407	12,648	59,547	2,515
6 月	628,574	327,964	47,467	8,678	89,927	11,199	33,209	16,713	25,181	11,497	54,408	2,331
7 月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
前年同月比	100.4%	101.9%	98.0%	96.4%	98.3%	98.5%	99.6%	97.7%	99.0%	96.6%	101.3%	95.9%
23 年度累計	4,974,311	2,589,103	382,546	67,437	707,079	89,187	263,171	133,579	200,253	90,695	432,951	18,310
前年同月比	96.9%	99.1%	89.5%	92.7%	94.2%	97.6%	97.0%	93.7%	96.3%	95.2%	98.1%	98.2%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

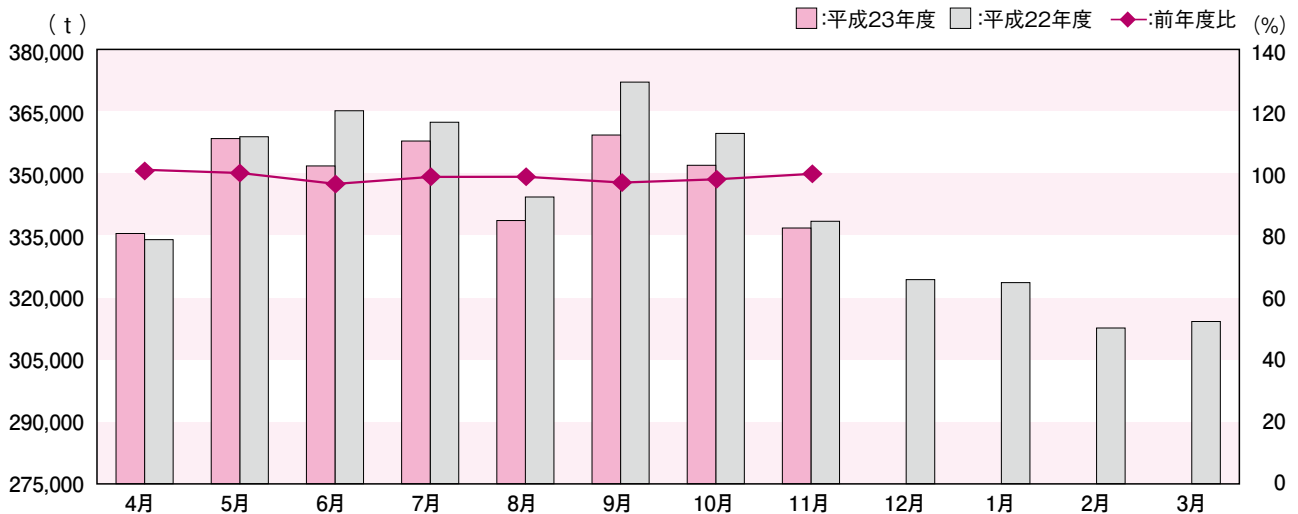


平成23年度（11月）用途別処理量

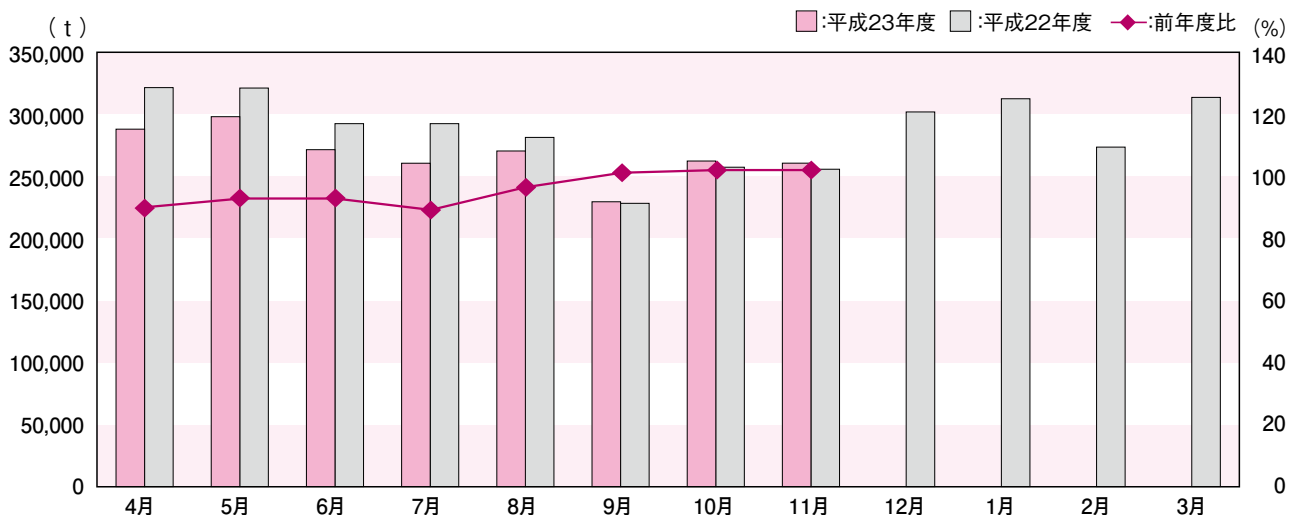
単位：t

	用 途 別 処 理 量							欠 減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	
22 年度 11 月	600,140	338,427	30,495	255,661	34,587	102,880	6,052	1,443
12 月	632,122	324,324	28,126	301,804	40,420	105,418	5,994	1,495
1 月	641,451	323,603	22,603	312,431	47,990	89,110	5,417	988
2 月	591,460	312,633	22,039	273,485	43,553	87,695	5,342	948
3 月	633,178	314,206	19,911	313,529	44,805	84,570	5,443	1,553
23 年度 4 月	628,833	335,472	22,962	287,933	41,455	96,214	5,428	1,317
5 月	661,818	358,410	26,317	297,991	43,325	98,744	5,417	1,002
6 月	628,574	351,800	23,936	271,407	41,464	99,952	5,367	953
7 月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054
8 月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9 月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10 月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11 月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
前年同月比	100.4%	99.5%	96.3%	101.9%	110.8%	105.5%	83.9%	61.4%
23 年度累計	4,974,311	2,790,131	204,628	2,140,457	315,923	832,504	43,723	8,582
前年同月比	96.9%	98.4%	98.7%	95.1%	98.5%	104.7%	90.8%	65.8%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。



酪農家チーズ

全酪連 酪農家チーズの紹介

国産
チーズ
100%
使用

「酪農家チーズ とろけるスライス」「酪農家チーズ スモークチーズ」「酪農家チーズ スライスチーズ」
「酪農家6Pチーズ」「酪農家チーズ200g」

日本の安心・安全な生乳より作られたナチュラルチーズのみを使用したプロセスチーズです。
北海道・東北地方原産のナチュラルチーズを用いており、まろやかな味をご賞味いただけます。



酪農家チーズ とろけるスライス

内 容 量 144g
包 装 形 態 12個/ケース
賞 味 期 限 180日



酪農家チーズ スモークチーズ

内 容 量 150g
包 装 形 態 30個/ケース
賞 味 期 限 180日



酪農家チーズ スライスチーズ

内 容 量 144g
包 装 形 態 12個/ケース
賞 味 期 限 180日



酪農家6Pチーズ

内 容 量 120g
包 装 形 態 12個/ケース
賞 味 期 限 180日



酪農家チーズ 200g

内 容 量 200g
包 装 形 態 30個/ケース
賞 味 期 限 360日

パッケージが変わりました。

全国酪農業協同組合連合会

ご用命は

酪 農 部 03-5931-8008 札幌支所 011-241-0765 仙台支所 022-221-5381
名古屋支所 052-771-7104 大阪支所 06-6305-4196 福岡支所 092-431-8111

北海道 乳牛産地情報

平成24年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~31	▲	12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で101.9%、累計で100.8%。苫小牧管内月計98.0%、累計95.3%の実績となっております。1月の初妊牛の動向ですが、3月、4月分娩が中心になり、価格的には例年強含みとなっております。今年度に置きましても強含みの価格で取引されるものと思われます。また、育成牛につきましても10ヶ月齢を中心に強含みの価格になると思われます。
	初妊牛	50~57	▲	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~35	▼	12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で98.9%。中標津管内月計で102.8%、累計で99.9%の実績となっております。1月の初妊牛の動向ですが、昨年に引き続きホルスタイン腹(特に選別)については導入助成金等により、安定な相場で動く予想されます。初妊牛の相場はここ2~3年に比べれば弱含みで推移していましたが、育成牛は初妊牛の相場に関係なく高値で維持しており、購買者側から見れば、年明けはかなり厳しい相場になるものと思われます。
	初妊牛	50~58	▼	
	経産牛	40~45	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	28~34	▼	12月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で101.0%、累計で99.9%の実績となっております。1月の初妊牛の動向ですが、3月中旬~4月分娩腹が中心に動き、道内の導入も堅調であり、都府県の需要も強めで動く予想されますので価格については強含みで推移するものと思われます。特にホルスタイン腹は資源が少ないため引き合いが強い状況が継続しそうです。また、育成牛・経産牛の需要も堅調で続いており、横這い以上で動くものと思われます。
	初妊牛	52~58	▲	
	経産牛	42~47	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~30	→	12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計100.3%、累計98.6%、北見管内月計で100.9%、累計99.6%の実績となっております。初妊牛の動向ですが、3~4月分娩が中心となります。先月までは、資源も豊富にあり相場も安めで安定していました。今後、春生みに向けて道内外からの導入が活発になることと、資源が少なくなっていくことが予想されるため、相場はやや強含みで動くことが予想されます。
	初妊牛	49~54	▼	
	経産牛	35~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~35	▼	12月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で101.1%、累計99.1%の実績となっております。1月の初妊牛の動向ですが、3月から4月分娩が中心になります。導入の動きも活発になることが予想され、強含みで推移することが予想されます。昨年よりは資源は豊富ではありますが、道内需要も活発であるため、資源的には逼迫していると予想されますので、導入条件等に幅を持った購買をお願いします。
	初妊牛	50~58	▲	
	経産牛	40~47	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

お父さんとミルク作り

今月の表紙は、「酪農いきいきフォトコンテスト」(全国酪友フォーラムにて開催)に応募いただいた作品「お父さんとミルク作り」(山形県 船山健司氏 撮影)です。一生懸命にお手伝いをしている女の子の写真です。寒い山形で、今日もお仕事に励んでいるのでしょうか。



編集後記

▼あけましておめでとうございます。皆様は新年をどのような気持ちで迎えられましたでしょうか。
 ▼東日本大震災の影響も残る中、TTPについては関係国との協議に入るとの発表があり、不安が残る年越しとなりましたが、今年も被災地の早期復旧・復興、またTTP交渉参加阻止に向けて、本会職員一丸となって全力で取り組んでまいります。
 ▼今年も皆様に新鮮な情報をお伝えできるよう努めてまいります。変わらぬご指導のほど、宜しくお願い致します。

平成24年1月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 1月号 No.556

●編集・発行人 近藤 祥史
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>



今月の



入賞作品介绍

育てた牧草を食べてくれた

灘小学校(西日本)4年 中村 緋希



今月の入選作品は、灘小学校(西日本)4年の中村緋希くんの「育てた牧草を食べてくれた」です。

牛さんが牧草を食べているところがうまく描けましたね。背景は荒削りですが、かえって主題が強調されています。牛さんの白さは画面を引き立てています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第38回らくのうこどもギャラリー」で全国279点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議